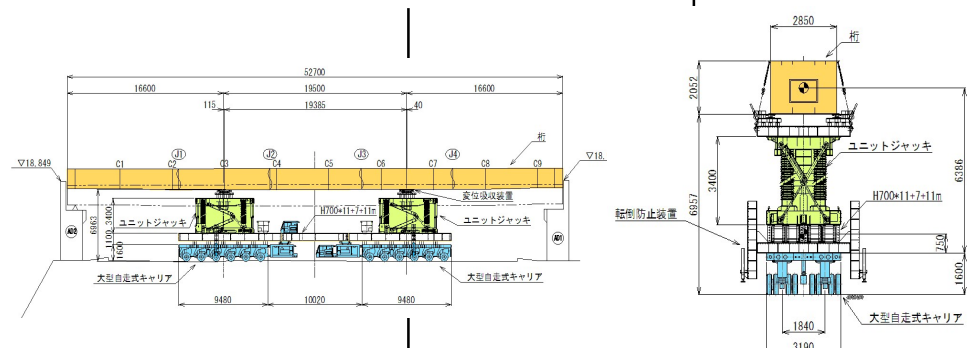
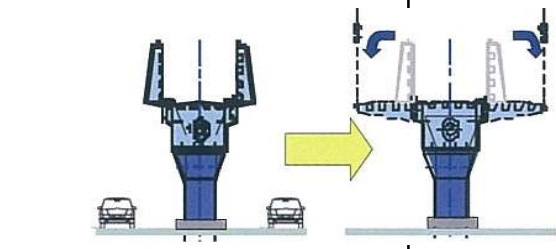
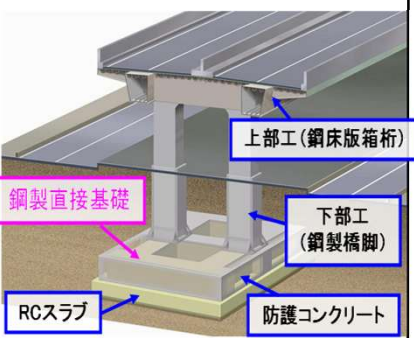
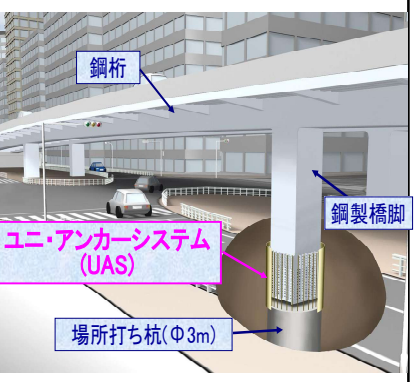


技術No.	名 称 / 会社名	特 徴
22	急速施工工法	市街地の立体交差化工事等において、下記を実現できる新しいインフラ整備技術です。
	●川田工業(株) ・SMOOTH工法	①周辺地域の交通渋滞を抑制 ②急速施工、大幅な工期短縮 ③低コスト ④交通規制の最小化 ⑤高い耐震性(上下部一体構造の場合)
	●JFEエンジニアリング(株) ・RELIEF工法 ●日本ファブテック(株) ・SC-Brec工法 ●日本車輛製造(株) ・大型自走式キャリアとユニットジャッキの組合せ一括架設	各社所有の技術(左記)のうち、4技術について詳細を紹介。
	●カナデビア(株) ・UFO工法 ・Hi-FLASH工法 ●アルソシア鉄構(株) ・みつき橋工法 ・短期立体交差システム ●エム・エム ブリッジ(株) ・すいすいMOP工法 ●宮地エンジニアリング(株) ・QS工法 ●(株)横河NSエンジニアリング ・クル・スル工法 ●(株)横河ブリッジ ・クイックブリッジ工法	【UFO工法】 都市部の慢性的な交通渋滞を解消し、スムーズな都市交通を早期に実現するため、渋滞する交差点を短期間で立体化する工法。 現地施工に長時間を要する基礎構造に軽量でプレファブ化が可能な鋼製の直接基礎を用いることにより現地工期を大幅に短縮。 NETIS登録番号:TK-980040-A 【Hi-FLASH工法】 都市部の慢性的な交通渋滞を解消し、スムーズな都市交通を早期に実現するため、渋滞する交差点を短期間で立体化する工法。 本工法の根幹技術である鋼製橋脚と杭基礎の新接合構造「ユニ・アンカーシステム(UAS)」を採用して1柱1杭構造とすることにより、従来構造(群杭+RCフーチング+アンカーフレーム)に比べて工期の短縮、施工ヤードの縮小、工費の縮減が可能。 特許:4691690号, 6009778号, 6021993号 建設技術審査証明:建技審証第1303号 ((一財)土木研究センター) NETIS登録番号:KK-060011-A

概念図(構造形式)	適用支間	概略工期	施工実績
事例1: 大型自走式キャリアとユニットジャッキの組合せによる一括架設 		交通規制等の減少が可能。	中部地方整備局 西尾跨道橋にて採用・実施。
事例2: すいすいMOP工法(モジュール桁架設) 			東京都／新小岩陸橋／平成19年度 中国地整／岡山BP立体交差／平成20年度 北海道開発局／東橋／平成24年度 阪神高速／海老江JCT／平成25年度 首都高速／生麦JCT／平成28年度
事例3: UFO(ユニフライオーバー)工法  最大支間長60m程度		上下部基礎工にコンクリートを用いた従来工法に比べ、現地工期が50%以上短縮可能となる。	大阪/北花田跨道橋 1996 四国地整/原田高架橋 2004 関東地整/問屋町跨道橋 2010
事例4: Hi-FLASH工法  最大支間長60m程度		杭施工から接合構造の施工までを従来構造に比べ75%短縮可能。	西日本高速道路(株)/ 近畿自動車道守口ジャンクション 2012